

長寿医療研究開発費 平成22年度 総括研究報告

高齢化する東アジアを主とするアジア地域における
老年医療、介護施策、地域社会、産業のあり方に関する
共通課題の抽出と国立長寿医療研究センターの役割

主任研究者 鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター 研究所長

研究要旨

本研究は、今後、著しい速さで高齢化が進行すると予測される東アジアを主とするアジア地域における老年医療、介護施策、地域社会、産業のあり方について、共通課題を抽出するとともに、課題の解決に向けた具体的取り組みを明らかにし、その中で国立長寿医療研究センターが果たすべき役割を提言することを目的とした。

わが国は世界最高の平均寿命でも知られるように、世界で最も高齢化が進行した国であり、アジア地域における高齢社会の最適モデル地域の一つとも言われている。わが国を含むアジアでの高齢化のあり方や高齢社会の構築は、欧米とは明らかに異なる気候・風土・文化的背景の中で親展していくものと考えられ、わが国はその豊富な経験と知識の集積をアジアの高齢化のリーダーとして遺憾なく発揮すべきであると考えられる。

このため、アジア及びわが国の政策担当者、老年学・老年医療分野の学識者、その他関連分野の専門家約25名を一同に集め、高齢者問題の解決上必要とされる各国固有の課題及び対策の現状と今後の方策、並びに国際間で協力して対応すべき共通課題について議論して、共通課題の抽出を行い、各国の政策にも活用し得る具体的な提言を取りまとめることを目的とし、平成22年10月30日、31日の2日間において”Asian Aging Forum 2010”を開催し、目的を達成した。

主任研究者

鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター 研究所長

分担研究者

なし

A. 研究目的

本研究は、今後、著しい速さで高齢化が進行すると予測される東アジアを主とするアジア地域における老年医療、介護施策、地域社会、産業のあり方について、共通課題を抽出するとともに、課題の解決に向けた具体的取り組みを明らかにし、その中で国立長寿医療研究センターが果たすべき役割を提言することを目的としている。

B. 研究方法

アジア及びわが国の政策担当者、老年学・老年医療分野の学識者、その他関連分野の専門家約40名を一同に集め、高齢者問題の解決上必要とされる各国固有の課題及び対策の現状と今後の方策、並びに国際間で協力して対応すべき共通課題について議論し、課題の抽出と絞込みを行う。また、取扱う分野に関する関連資料を参加者の協力を得て収集・整理する。具体的には平成20年10月30日、31日の両日にあいち健康プラザにおいて”Asian Aging Forum 2010”を開催し、ハイレベルで議論して各国の政策に活用することができる具体的方策として取りまとめるとともに、その中で国立長寿医療研究センターが果たすべき役割を提言する。

(倫理面への配慮)

特になし

C. 研究結果

本研究課題の具体的方策として、平成20年10月30日、31日の両日にかけてあいち健康プラザにおいて、国内外の研究者約40名参加を得て、”Asian Aging Forum 2010”を開催した。内容は以下のとおりである。

Asian Aging Forum 2010

10月30日(土)

- 9:30 開会の辞及び基調講演 I (Opening Remarks & Keynote Speech I)
アジアにおける高齢社会の現状と今後
“Current Scope and Future Option for the Aged Society in Asia”
大島 伸一(NCGG) Shinichi Ohshima(NCGG)
- 9:45 セッション I 「地域における高齢者の健康増進」
(Session I ”Health Promotion in the Community”)
議長：SC Park, 鳥羽 研二 (NCGG)
(Chairpersons: SC Park and K Toba)
1) Jin Jong Chen (FALA, Yang-ming Nat.Univ., Taiwan)

- 2) Yunhwan Lee (Preventive Med & Public Health, Ajou Univ., Korea)
- 3) Wang Jian Ye (Vice President, Beijing Hospital)
- 4) 下方 浩史(NCGG)Hiroshi Shimokata(Epidemiology, NCGG, Japan)

- 10:45 セッションII「保健とケアそして介護予防」
(Session II "Health Care and Long-term Care Prevention")
議長：SC Park, 鳥羽 研二(NCGG)
(Chairpersons: SC Park and K Toba)
- 1) Hyoung Sun Jeong (Health Administration, College of Health Science, Yonsei Univ., Korea)
 - 2) Ching Yu Chen(Family Med. Nat. Taiwan Univ., Taiwan)
 - 3) 大淵 修一(東京都健康長寿医療センター) (Shuichi Obuchi (Long-term Care Prevention, TMIG, Japan))
- 11:30 休憩 (Coffee Break)
- 11:45 セッションIII「地域における社会ネットワークとサポート」
(Session III "Social Support and Network in the Community")
議長：JJ Chen, 鈴木 隆雄 (NCGG)
(Chairpersons: JJ Chen and T Suzuki)
- 1) Piu Chan(Xuanwu Hospital, Capital Univ., Beijing, China)
 - 2) Gyoung Hae Han(Human Ecology College, Seoul Nat. Univ., Korea)
 - 3) 古谷野 亘 (聖学院大学) (Wataru Koyano (Seigakuin Univ., Japan))
- 12:30 昼食 (Lunch)
- 13:30 セッションIV「高齢者に対する政策とその実行」
(Session IV "Policy Making and Its Implementation")
議長：JJ Chen, 鈴木 隆雄 (NCGG)
(Chairpersons: JJ Chen and T Suzuki)
- 1) Soonman Kwon (Health Policy and Management, Seoul Nat. Univ., Korea)
 - 2) Pham Thang (Nat. Inst. Gerontol., Vietnam)
 - 3) Tung-liang Chiang (College of Public Health Nat. Taiwan Univ., Taiwan)
 - 4) 長谷川 友紀 (東邦大学) (Tomonori Hasegawa (Sch. Med., Toho Univ., Japan))
- 14:30 展示 (Exhibition)
- 15:30 小委員会 (Subcommittee)
「アジア・エイジング・サミット2011」に向けて議題や参加者について協議
(Organizing Committee Meeting to discuss the agendas and participants for the "Asian Aging Summit 2011")
- 1) 医学/健康分野 議長：長谷川 敏彦
(Health and Care Section (Chair: Ts Hasegawa))
SC Park, Yh Lee, JJ Chen, P Chan, P Tang
大淵 修一, 下方 浩史, 高橋 龍太郎
(S Obuchi, H Shimokata, R Takahashi)

- 2) 社会/政策分野 議長：長谷川 友紀
(Policy and Social Section (Chair: Tm Hasegawa))
GH Han, SM Kwon, HS Jeong, CY Chen, TL Chiang, WJ Ye
神崎 恒一, 古谷野 亘, 西永 正典, 山内 繁
(K Kozaki, W Koyano, M. Nishinaga, S Yamauchi)

10月31日(日)

- 9:15 基調講演Ⅱ (Keynote SpeechⅡ)
「アジアの高齢社会のサクセスフルかつ持続可能な発展」
“Successful and Sustainable Development of the Aged Society in Asia”
Sang Chul Park (College of Med., Seoul Nat. Univ.)
- 9:40 基調講演Ⅲ (Keynote SpeechⅢ)
「アジアの高齢社会における応用老年学の意義」
“Implication of the Applied Gerontology in the Aged Society”
柴田 博 (人間総合科学大学大学院)
(Hiroshi Shibata (Univ. Human Arts & Sci., Japan))
- 10:00 小委員会からの報告とまとめ
(Reports and summation from the Organizing Committee Meeting)
- 1) 医学/健康分野 議長：長谷川 敏彦
(Health and Care Session by Toshihiko Hasegawa)
- 2) 社会/政策分野 議長：長谷川 友紀
(Policy and Social Session by Tomonori Hasegawa)
- 10:30 休憩 (Coffee Break)
- 10:50 全体会議及び共同声明の採択
(General Meeting and Joint Statement for the “Asian Aging Summit 2011”)
- 11:00 閉式の辞 (Closing Remarks and Dissolution)
- 11:30 げんきの郷見学 (Mini Excursion to the “Genkino-Sato” (Healthy Town))

以上のようなプログラムの中で、今後の Asian Aging Summit に向けた議論や課題の整理が行われた。Asian Aging Summit は、アジア諸国の急速な高齢化に伴う諸問題に対処するため、アジアの気候・風土・文化を踏まえた解決方法を提示、提案することを目的として今後開催が予定されているものである。その目的の達成に向けて、特に Asian Aging Forum 2010 では、主に「医学・健康」および「社会・政策」分野の専門家の参加と協力を得て、サミットにおいて議論すべき課題や参加すべき国の選定などについて議論が行われた。その結果、サミットで議論されるべき課題として以下の内容が採択された。

- 1) 地域における高齢者の健康増進
- 2) 高齢者の生活の場としての地域を中心としたネットワークやサポートのあり方
- 3) 保険制度を含む保険と長期介護
- 4) 高齢者の健康に対する政策とその実行
- 5) 高齢社会における高齢者への技術の応用とビジネスモデル

また、Asian Aging Summit に参加すべき国や地域の選定、および参加すべき具体的な参加者の決定に向け、積極的な招聘活動を含め、準備的活動を開始していくことを決定した。

D. 考察と結論

Asian Aging Forum 2010 では国内外から高齢者問題の第一線の研究者約40名の参加があり、東アジアの高齢化の現状と課題についての紹介と議論および論点整理を行った。その結果、研究結果で述べた5項目が今後継続して取り組むべき共通課題として採択された。これらの項目に共通するのは、いずれも老年医療、介護施策、地域社会、産業のそれぞれが個別に取り組むべきものではなく、これらすべてを含めた多種・多領域からの包括的なアプローチが必要だということである。老年医療、介護施策、地域社会、産業が今後どうあるべきかという問いについては、これらの包括的アプローチが各国に共通する今後の目指すべき方向だと言えらる。

また、具体的にはどのように異なる領域間、および各国間の連携を深めていくべきか、という点についてさらに議論を重ねていく必要があり、本課題について、今後も国立長寿医療研究センターが中核となって総合的研究を推進することが確認された。

E. 健康危険情報

特になし

F. 研究発表

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況

特になし